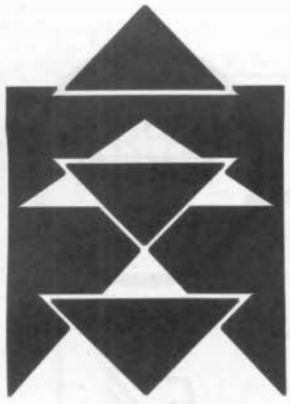


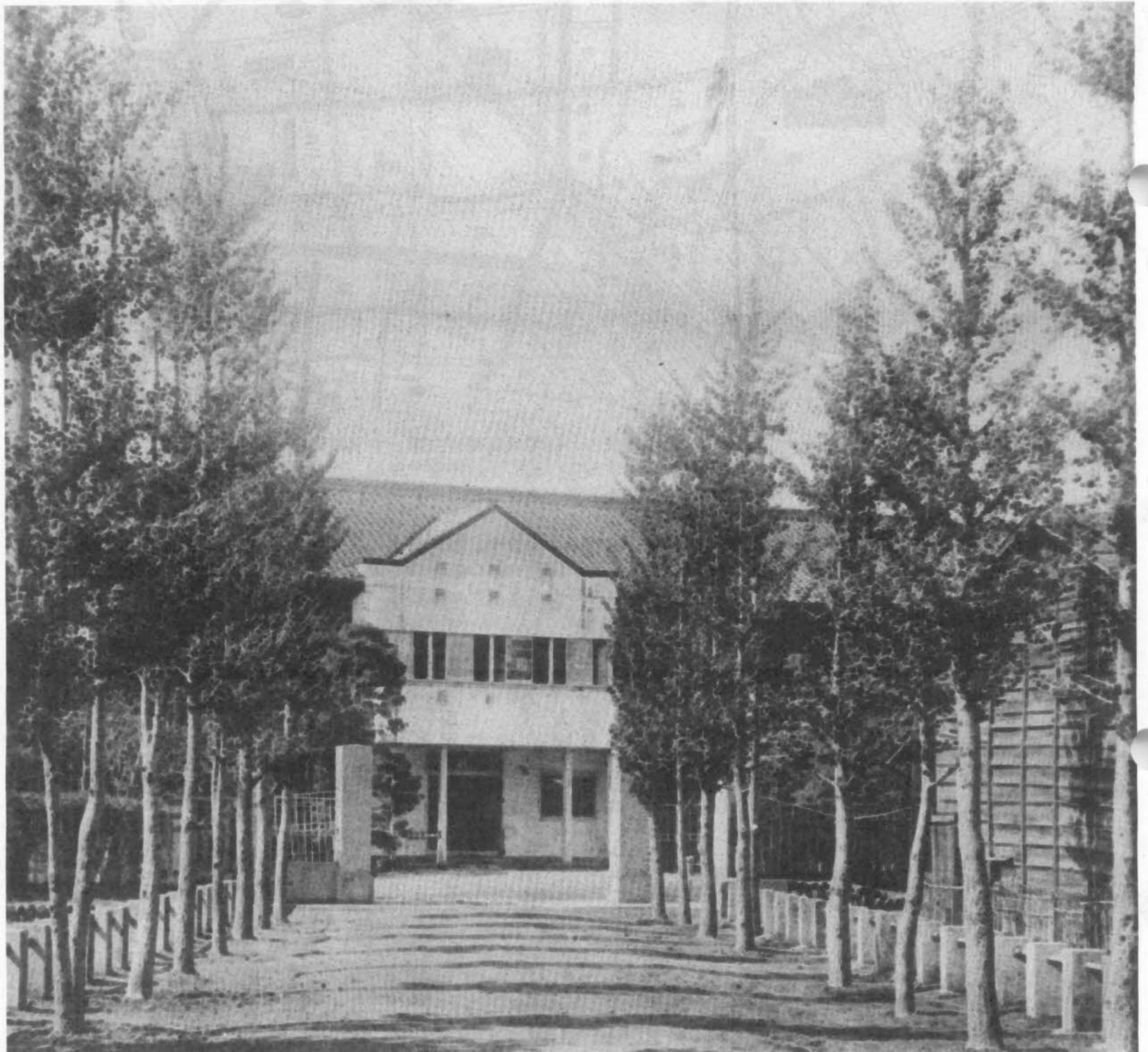
1994

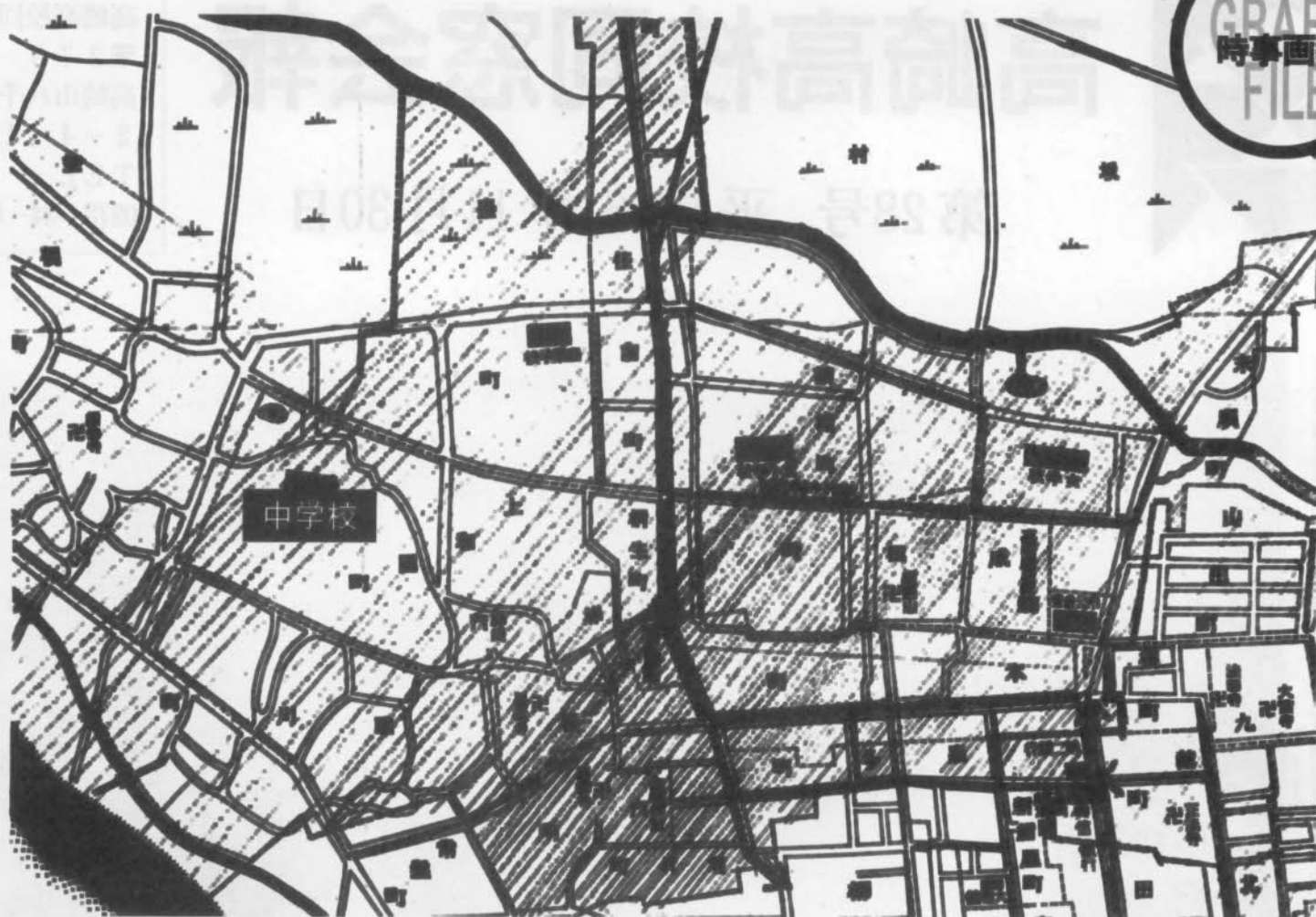


高崎高校同窓会報

第28号 平成6年11月30日

発行所
高崎高校同窓会
〒370
高崎市八千代町
2-4-1
TEL
0273-24-0074





◎表紙の写真
上和田校舎

◎表紙裏の写真
上和田校舎移転当時の地図

写真提供/岩山 猛(49回)

現在、上和田校舎の跡地は高崎市立第一中学校となっている。
移転当時〔明治29年(1898)〕は田圃を整地したばかりで垣根もなく、冬には夜な夜な狐が鳴き通るような寂しいところだったが、年度内には寄宿舎も建ち、やや賑やかになった。
爾来30数年、講堂や中央校舎、理科教室、生徒控所、銃器室、南校舎など次々と設備されたが、昭和6年(1931)の関東大震災による被害や、老朽化、運動場等が手狭になったことなどから昭和13年(1938)現在の乗附校舎に移転となった。

高高同窓会報 No.28 目次

あいさつ

高中・高高的青春のために 同窓会会長	小山 禧一	3
ごあいさつ 校長	堀口 康平	4
同窓会の支援に感謝 PTA会長	栗本 靖彦	4
心の里帰り 同窓会副会長	浦野 清	5
新任のあいさつ 教頭	森田 忠義	5

論壇

学校教育と学歴	竹内 克好	6
同窓会事務局からのお知らせ		7
高新聞・「群馬」バックナンバー確認のお願い		
同窓会費納入についてのお願い/通信欄のご紹介		
周年事業をふりかえる		8
創立より60周年まで		
校旗制定由来		
新校歌制定について		

人物列伝

同窓会だより		11
42期古稀記念誌「懸車」について	内山 信次	12
クラス会誌「のっつけ」のこと	小澤 清	12
「高五十期あの日あの頃」	横田 英一	12
51期会報「秀嶺模範案に」	田中 順	13
褒賞・叙勲者紹介		13
翠樹文庫		13
大学生からの便り	茂木 幸伸	14
卒業生の作品紹介「座る女」	高橋 威足	14

母校だより

各部の活躍		15
各部の活動		16
翠樹祭・高前定期戦		18
最近の進学状況について		19
人事異動		19
同窓会会計報告		20
新年総会へのお誘い		20
編集後記		20



高中・高高の青春のために

同窓会会長 小山 禧一

記録的な猛暑だった今年の夏は、昨年の長雨の冷夏とは違って変わって日照りの夏となり、この暑さには閉口なされた諸先輩もおられたのではないかとご推察申し上げます。しかし、暑い夏は豊作になるという言い伝えどおり、今年の稲の作柄は良いようですが、同窓の諸兄におかれましても、相変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

本同窓会も、すでに二万一千有余の会員を擁する会に発展してまいりましたが、ただ会員が増えているのみではなく、会員相互の連絡コミュニケーションが円滑に行われており、とくに毎年一月の新年総会の盛会ぶりは、そのことを強く印象付けられて心強く感じておる次第であります。また、本同窓会の活動資金であります維持会費の納入も年々増加の一途をたどっておりまして、百周年を控えました本会といたしましては、心強いかがりです。さらにより多くの同窓諸兄のご賛同とご協力がえられますように、魅力ある同窓会づくりのために鋭意努力していかねばならないと役員一同改めて決意いたしております。

今年も各方面での同窓諸兄のご活躍を耳にする機会が多いのでありますが、ご同慶の至ります。また、現役の高高生の勉学・スポーツの分野における活躍にも目を見張らせるものがあります。私達同窓生といたしましては、母校の後輩たちの元気な姿を見るときほど嬉しいものはないものであります。日夜生徒の指導にあたられている先生に深く感謝申し上げる次第であります。

さて、ご案内のとおり母校高中・高高は、創立百周年記念をいよいよ二年半後に控えました。平成九年五月がその記念式典の予定であります。明治三十年（一八九四）、高崎町赤坂の名刹長松寺を仮校舎として誕生して以来一世紀を閲し、その間の日本の歴史の激動ぶりは同窓諸兄の遍く知るところであります。特に高中と呼ばれていた時代から、高高への変貌ぶりはまさに言語に絶するものがありました。世の中のものの考え方や、政治の仕組みなどは変わっていくものであると、書物などにはよく書かれていることですが、全くその通りであると、戦前と戦後を経験したものである私達の世代は、身に染み

て実感いたす次第であります。

しかしそれと同時に、変わってはならないものもあると思います。それはたとえば、家族や社会、自然を大切にする気持ちとか、そのほかにも色々あると思いますが、その中に自分が学んだ母校を大切に思う心も含まれていると思います。と申しますのも、人の一生の中で最も輝いている時期は、やはり青春時代だと思うからです。戦争やら何やらと逃れることのできない時代の波に翻弄されながらも、私達は確かに十代を高中・高高で過ごしました。私達は年を取って、やがて順番にこの世から去っていきますが、高中・高高での青春は百年、二百年とずっと続き、私達のそれぞれが輝かしい時代を高中・高高で手にいれたように、後に続く人たちにもここでそれを手に入れてほしいと願う次第であります。

そういう思いが一つにまとまって、いま百周年の記念事業がスタートいたしました。母校の生誕百年をお祝いする記念事業ですので、同窓諸兄にはどうか全員の方に参加していただき、私達にとって宝物である高中・高高での青春が、二百年、三百年と続いていくことを共に祈りたいと願う次第であります。この趣旨をご理解していただきまして、ご協力ご賛同をいただければ幸いに存じます。

誠に言葉ととのいみませんが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますとともに、同窓諸兄の益々のご発展とご健勝をご祈念申し上げます。挨拶といたします。



あいさつ

校長 堀口 康平



同窓会の支援に感謝

PTA会長 栗本 靖彦

輝かしい歴史と伝統を誇る高崎高校に赴任して早一年半が経過致しました。この間、同窓会の皆様には温かいご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。お蔭様にて母校は勉学にスポーツにと全校が燃え、順調な発展を続けておることを先ずもってご報告申し上げます。また、三年後に迫った創立百周年に向けての記念事業につきましても、着々と準備を進めいただき感謝に堪えません。重ねて衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、母校の近況であります。平成五年度の大学入試結果は、別に掲載されているとおり、東大現役合格十七名を始めとして、合格率が八割になんなんとする画期的な成績を残すことができました。また今年度の部活動では、軟式野球部の関東大会準優勝を始め、高校総体の総合順位が昨年を上回る第三位の成績を占めるなど、文字どおり文武両道の伝統に恥じない素晴らしい成果をあげることができました。これは密度の濃い授業や補習、限られた時間内の部活指導等に使命感を燃やして意欲的に努める教職員と、それらに真剣に応え全力でチャレンジする生徒達の努力の結果であります。とともに、そ

の背後にあって全面的にバックアップ下さる同窓会・PTAの皆様のご援助の成果でもあると確信しております。改めて高崎の底力を痛感したところであります。なお、今年から新教育課程が実施に移され、家庭科棟建設と平行して家庭科の学習も始まってまいります。ところで、過日は県の後期中等教育審議会から群馬の高校教育について大胆な改革の方向を示す中間報告が出されました。また、学校週五日制の月二回実施が来年度から必至との情報も伝えられるなど、高校教育を巡る状況の変化には目まぐるしいものがあります。しかし私共は、本校に課せられた不変の使命や熱い期待への認識に立って、授業方法等を含めて時には大胆な発想の転換や意識の改革を行い、本校の活性化を図ってまいり所存であります。そうすることが、宮々として築かれた高崎の「伝統」を受け継ぎ、百年の大きな節目を迎えるに相応しい学校作りの道と考えますので、ご理解を賜るとともに、変わらぬご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

同窓会のみましますのご発展と皆様のご健勝とをご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

五月のPTA総会で内田前会長より引き受けましたPTAも、半年が経過しました。日頃のPTA活動についてご紹介いたします。

主たる事業は六名の委員長を中心に事業委員会、セミナー委員会、広報委員会、そして各学年委員会で進められます。

事業委員会は、特に登校時の自転車通学の状況をつぶさに見て、交通安全の指導にあたっております。この活動は「マナーアップ運動」として全県下で実施する事業でもあります。高崎生はあいさつが十分とは言えませんが整然とした通学態度は合格でしょう。

セミナー委員会では七月二日、私の人生と仕事観」という演題で、小峯先生(52回、富士電気社長)と山田先生(52回、新興産業会長)両先輩より、御講話をいただきました。ユーモアあふれる山田先生の話に納得し、小峯先生の流れるような話し方の中に男のロマンを感じた次第です。ありがとうございます。

広報委員会は年三回PTA会報、爽

風を発行しております。会報は学校と会員とのパイプ役であり、情報交換の場であります。七月の四十号は、親について思う事」をテーマに、大学在学中の卒業生より投稿してもらいました。

各学年委員会は、学年別教育方針及び生徒の生活指導、進路指導等、様々な角度から懇談会を通じ、理解を深めております。

PTA活動を二、三申し上げましたが、これらの事業は、機会あれば先生方とことん話し合って見たいと願う父兄の力強い向上心に支えられ、それをしっかり受け止めていただける先生方の熱意と協力によるものであり、それに敬意を表します。近年、文武両道に実績を積み上げていることも、その成果と思っております。

最後になりましたが、学校が掲げる教育目標実現に向けて、高崎生の大応援である同窓会の幅広い活動に心から感謝申し上げます。あいさつといたします。

(上毛食品工業社長 62回)



心の里帰り

同窓会副会長 浦野 清

学業をおえて職についてしまいますと、その職域や仕事の関係を中心に人間関係がひろがっていく傾向がどうしてもあります。特に最初の数年、十数年は、まさに没頭して他を顧みる余裕すらないのが、まあ普通でしょう。

だがここで、特に前途ある若い後輩諸君にいいたいのは、高校、あるいはそれにつづく高等専門教育と、人格形成にもっともだいいじな時期を経てきたばかりの人々が、その後も一生の心の原点——とりわけ高校時代を絶えず思い起こし、ときには旧い友人とふれあい、かわりを持ちつつけることができたなら、よしや仕事一途の日々といえども、どんなにか疲れた心に安らぎを与えることでしょうか。その人のキャリアを積み上げていく上でも、はかりしれない効果をもたらすはずです。

ここ数年、一月の總會や秋の京浜同窓会に若い世代のお顔ぶれがいまひとつ——と感じているものですから、生意気にも失礼なことをいわせていただきます。

「一生の心の原点」と前に述べまし

たが、それをたしかめることも絶えて、心の無国籍者のように仕事人生を漂流していくのみであれば、たとえ末は大臣・博士になろうとも、まことに淋しい限りです。

いま同窓会の最大課題・百周年行事を目前にして、私も含めていままです遠勝ちだった方々も、この機会に「高々へのお里帰り」を試みてはいかがでしょうか。お仕事疲れの「渴いた心」が、あるいは一等それをのぞんでいるかもしれません。

(京王百貨店相談役 43回)



この度の人事異動により、高崎高校に着任いたしました。

母校の充実と発展に全力を傾注され、文武両道に多くの成果を残し高ホルネッサンスを開花させた金井秀一前校長、この路線の内的充実を図り、高校教育の大きな変革期を目前に新たな改革を目標す堀口康平校長をリーダーに、全教職員が一丸となって生徒の教育に当たっている母校の姿を目のあたりにして、改めて伝統の重さと責務の重大さを痛感している次第であります。

和田橋が架けられ、学校周辺の宅地化が進み、木造から鉄筋の校舎となった母校に体育科の教師として勤務した時代から随分と年月も経ち、生徒の気質も変わったと言われては居りますが、翠糖祭、定期戦等の学校行事に取り組む生徒の中にいわゆる高々精神である質実剛健、野生味、三下精神の発露が見られることは誠に頼もしい気がします。さて、本校の標榜する文武両道についてであります、平成五年度末の進学状況は東大合格者十九名(内現役十七名)を始めとして、延べ九九八名



新任のあいさつ

教頭 森田 忠義

(現役合格率79・2%)の好成績をあげ、県内はおろか全国の公立高校の中でも有数の進学実績をあげることができました。また部活動においても、五月に実施された県高校総体では学校総合成績第三位の大躍進を遂げる一方、関東大会にも県総体で優勝した軟式野球、テニスを始め、バレーボール、柔道、陸上、水泳、山岳の各部が出場し、スポーツの面でも普通高校の旗頭として大いに気を吐いております。このことは、先輩の方々が築いてくれた伝統が脈々と後輩に受け継がれている証拠であろうと思われまします。

同窓会の皆様には平素から本校のあらゆる教育活動の面において、ご支援、ご指導をいただいております。ご支援、創立一世紀の大きな節目となる百周年を三年後に控え、さらなる伝統を創造し、志の高い、社会に有為な生徒の育成を図るため、微力ではありますが全力を尽くす所存でありますので、一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。ともに高同窓会の益々のご発展を祈念いたします。ご挨拶いたします。(50回)

明治五年に近代的な義務教育制度が発足したときは、政府の側としては、個人の利益のための学校というよりは、日本の近代化のため、富国強兵のためという公の利益が念頭にあったと思われる。当時は庶民（ほとんどが農民）の側からみれば、学校は有難迷惑な施設であった。貴重な農業労働力である子供を、昼間学校に取られてしまうのであるから、無理からぬことであった。本人は学校へ行きたいのに親が登校させない。そこで駐在の警察官が、親の説諭に向くとといった

論壇

学校教育と学歴



竹内 克好

こともあったようだ。現代の不登校（登校拒否）とは正反対である。

政府としても、単にお国のためだから子弟を学校へ行かせるようにというのは、説得力がないことは承知していたから、就学率向上のためにはメリットをつけた。まず学校の教育カリキュラムを『世上に実のなき文学』（福沢諭吉「学問のすすめ」より）ではなく、役に立つ実学中心とした。そして学校卒業者を優遇する学歴主義を採用した。福沢諭吉によれば「人は生れながらにして貴賤貧富

の別なし。唯学問を勤て物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり」（「学問のすすめ」より）とある。学校へ行って勉強すれば金持ちになれるという実に明快な説明である。当時の学問とは、欧米文明の移入であり、この文明伝達所ともいえるべき学校は、東京大学を頂点として全国的に整備された、官主導型の教育システムである。

しかし何事によらず行き過ぎると問題は起こるもので、現在では、学歴主義が

非難されているのは、御存知のとおりである。ここでは学歴主義がなぜいけないのか、整理してみると次の三つが考えられる。

一つは、実力と学歴の乖離である。これは安易に学校が卒業証書を与えたからかも知れない。

い。英文科を出ても英語が話せないとか、商業科を出ても簿記が分からないといったことが発生した。そこで実力を示す資格とか検定が、もてはやされるようになり、例えば英語の能力検定に合格すれば、学校がそれを単位に認定するという逆転の仕組みも考案されるようになった。

二つは、人間は年と共に向上もしくは退化するからである。若年層のとき、学校で十分実力をつけたとしても、その後全く進歩しないどころか、極端に言えば痴呆化する人がいる。一方現代では、学

ぶ意欲さえあれば、いつでも、どこでも、学習可能であって、中高年になってからも実力をつけることは可能である。学歴社会とは、新規学校卒業生といわれる若い時の学校のブランドが一生ついてまわるということだから、その後の人の変化に合わなくなるのは、当然である。

三つは、学校教育の意味が、社会の要請に適合しないことである。簡単にいえば、社会の要求することを学校が教えないということである。学校には知識情報の伝達という機能があるが、指導すべき教員が、かつて免許状を取得したときの知識（多くは十年以上も昔の知識）だけを身につけたままでは、陳腐化して役に立たない。もちろん学校も教員の再研修とか、社会人を講師として招くとかの努力はしているが、すべての学校が社会の要請に適切に対応しているとは、決していえない。更に重要なことは、求められる人物像が違ってきたということである。これまで学校が得意としていた知識の伝達を、社会の方ではそれほど重視しなくなったのである。博識で指示に忠実な人物は、かつては企業では重用された。しかし、考えてみるとそのような人物は、つまりロボットということであり、本物のロボットが開発された現在、いらいなくなっていく。六・三・三・四と大学までかかって習得した知識は、コンピュータのディスク一枚にかなわないのである。

これからの時代に人材に求められる能力は、知識の量ではなく、創造力とかチャレンジ精神、問題解決力、自主性等ダイナミックな精神の働きである。自ら考え

主体的に判断し行動する力を持った人材が求められるのである。これは正にロボットやコンピュータとは対極に位置する能力であり、もっとも人間らしい能力ということができる。そしてこの能力は、これまでのような伝統的な教育方法（例えば講義方式）では、身につかない。実験、実習とか、討論とか、社会体験学習とか、要するに学習者が自分で答えを見つけ出すような能動的な学習法が必要になる。学校もその方向に向けて教育方法の改革を進めているが、学校だけでこの能力を習得させるのは無理である。この能力は、日常の生活全般にわたる生き方如何によって、伸びるものであるからである。したがって学歴があれば、創造力やチャレンジ精神等が自動的に身につくものではないのである。

以上のようなことから、社会は、学歴社会から実力社会へと動きつつあるが、問題は、相変わらず学歴社会だと思っている人が、児童、生徒の保護者に案外多いということである。実際がそうでないのに学歴社会だと信じていることを財界人の集まりである経済同友会も心配して、学歴神話の打破を訴えている。

一昨年、私が埼玉県教育長であったとき、中学の進路指導が知識偏重の業者テストに依存していたこともやめさせた。その背景には、ここに書いたような学校教育に関係のある変化を私が認識したということもあった。いずれにせよ、教育の問題が論議されることは、いつの世にあっても大変良いことである。

（埼玉県民活動総合センター理事長

同窓会事務局 からのお知らせ

高高新聞・「群馬」
バックナンバー確認
のお願い

高高新聞と生徒会誌「群馬」のバックナンバーを確認したところ、欠号がありました。全号揃え整本したいと思っておりますが、同窓の皆様のご協力をお願い申し上げます。もし、該当の新聞、「群馬」をお持ちの方は左記へご連絡ください。

● 高崎高校同窓会

同窓会報編集委員会

高崎市八千代町二一四一

電話 〇二七三二二四一〇〇七四

〔高高新聞 欠号〕

一〇一〇号

一二一七号（昭和27～28年）

一九・二〇号（昭和28年）

二四・三〇号（昭和29年～30年）

三三・三四号（昭和31年）
三六・三七号（昭和31年～32年）
三九・四一号（昭和32年～33年）
四六号（昭和33年～34年）
四九号（昭和34年）
五四号（昭和35～36年）
五六号（昭和36年）
六〇・六一号（昭和36～37年）
六四号（昭和39年～40年）
九九号（昭和46年）
一〇五号（昭和47年）
一一二号（昭和49年）
一三三三号（昭和53年）
一五五号（昭和58年）
一七六号（昭和63年）
一八一号（平成1年）

〔群馬〕（復刊）欠号

一八号（昭和55年）
一九号（昭和56年）

同窓会費納入に ついてのお願い

百周年をあと三年後に控え、高崎高校同窓会も、その会員数は二万人に近づきつつあります。この伝統ある高崎高校の同窓会活動も一段と活発化しておりますが、その運営は、皆様方が納められる同窓会費によっています。どうか同封の振替用紙をご利用の上、お納めくださるよう、よろしくお願い申し上げます。

通信欄のご紹介

● スペースの都合上、一例をご紹介します。
ご紹介いたします。

同

窓会報お送り下され有難う存じます。

表紙の上和田校舎時代の正門、なつかしく拝見しました。私は上和田校舎しか知りません。現高高校舎を見ても、よその学校のような気がしてなりません。表紙うらの写真、教練もやりましたし、運動会でも、三段跳びで優勝したことがあります。下の写真の左側のコートでテニスもやりました。同じ写真の右側の白い枠の窓が二つ見えるのは、当時の講堂ですね。卒業記念の写真は百十何名か並んで、一度に撮った記憶があります。

武井先生の回想記には出てきませんね。昭和五年卒業で、もう八十一歳と半分が過ぎ、もう六十三年程の前のこと、よき思い出を、よみがえらせていただきました。

狩野多喜（29回）

同

窓会報を毎号楽しみにしています。講堂が老朽化のため解体された由、淋しい限りです。かつては群響の演奏、中曽根元首相の若き日の講演会等、板敷の上にあぐらをかいてきいたものでした。

跡地に同窓会館建設の由、時代の流れを感じます。

幹事諸氏のご活躍を祈ります。

中野勝行（48回）

高

高同窓会をお送り下さいましてありがとうございます。いつも楽しみにしています。編集には、大変なことと思いますがこれからも宜しくお願い申し上げます。

私も卒業して四十年になり、東京に生活して四十年、十一月に長女を結婚させてほっとしているところです。皆様様の御多幸を祈り上げます。

小谷野英雄（62回）

「高

崎高校同窓会報」を拝読しました。

昭和二十五年三月卒業式を最後の講堂でしました。その講堂も消えた、時代の流れも変わる時期となったと感じました。

六十五歳となった私は「今日あるは母校あってのこと……」と強く感じる年齢となりました。想い出、懐かしい若い母校生活の時代を懐かしんでいます。

鈴木 茂（定4回）

同

窓会幹事の皆様大変御苦労様です。会報を読むたびに高高時代を思い出しております。これからよろしく御願い致します。

小林栄三（定17回）

周年事業をふりかえる

1

群馬県尋常中学校から群馬県高崎中学校、群馬県立高崎高等学校へ。
剛健にして清潔、水清らかに風吹き巻く最中に
鍛えられた正義を貫く反骨の精神が脈々と受け継がれる。



明治40年(1907)創立10周年を期に帽章が改正された。
2本の白線が新帽章とともに一段と目をひく。

創立より60周年まで

明治三十年(一八九七)四月一日、高崎高校は、群馬県尋常中学校群馬分校として赤坂町の長松寺を仮校舎として創立した。入学生徒は七十六名であった。

翌三十一年、上和田本校舎に移転。三十三年四月より、「群馬県高崎中学校」と称して、本校として独立した。

明治四十年(一九〇七)、創立十周年を迎え、校庭に樹木が植えられたり寄宿舎の庭園が修築されるなど、学校整備が進んでいった。また、この年に生徒の帽章が「高中」から「中学」の二字に改められ、二本の白線が配せられた。

明治四十五年(一九一二)四月二十八日には、創立十五周年記念式典を挙げ、その式後大運動会を開催して祝意を表した。

大正七年(一九一八)一月五日、創立二十周年の祝賀会が講堂で行われた。

当時の記録によると

「午前十時、講堂に於いて挙行。当日は集まるもの二百余名……」

(中略)。本校開校当時分校主任たりし峰岸高等師範学校教授の開



仮校舎として使われた長松寺。
本堂内の拝仏の間を区切って授業が行われた。

校当時の経営談には其草創の苦心困難見るが如く特に聴者をして当時の現況を追想せしむるものあり。(下略)

また、この年から、創立記念日を五月二十日としたようである。

昭和二年は創立三十周年に当たる年であったので、記念行事を計画していたが、たまたま大正天皇のご御諒闇に遇い、翌年に延ばして、昭和三年(一九二八)五月六日、創立三十周年記念祝賀会を校庭で行った。参会者は知事代理、県会議員を来賓とし、小・中学校長、職員生徒、卒業生をあわせて千二百余名であった。式の終了後ただちに南生徒控所に準備した祝賀宴会場に移り歓談した。

創立四十周年の記念式典は特に行わなかったようであるが、この昭和十

校旗制定由来

美術主任 塚田 亨

旧校旗は昭和二十六年本校火災のため伝統を物語っていたえび茶色の地に中学という帽章が配され、周囲には金の房まで施したデコラティブな校旗は惜しくも失われた。



新校旗は昭和三十三年本校創立六十周年を迎えるに当たってはその記念とし理化学室、剣道場の増築、新校歌制定と共にこの事業の一環として校旗も制定することとなった。

(中略) 学校としては広く生徒や職員からそのデザインを募集することを決め、早速本五月に掲示、〆切六月十五日とした。

然し進んで応募した生徒は僅かに二名であった。そのため往再日を送ったが名案なく、結局、井上房一郎氏、田中校長と私と協議の結果、美術の時間に生徒に描かせて見て、生徒の考えを基に作り上げようと前後二回に渡り約一、〇〇〇枚程の生徒作品から厳選の結果、T・H・Sを便化した、三年の金井忠男君、二年解良辰夫君、二年棒山和年君、高の字を便化した二年の小島曉君等、その他種々の作品三十数点が絞り出された。(中略)

その結果、本校出身の図案家古井土清三郎氏にT・H・Sの便化を、前記生徒



乗附校舎。上和田校舎正門の銀杏並木は（表紙写真）新校舎へ移され今日に至っている。



図書館



「草機」創立50周年記念号 表紙

三年に乘附新校舎が竣工した。年も押しせまった十二月二十七日、移転作業終了。十二月二十八日に、全校生徒及び職員は上和田校舎に整列し、高崎神社参拝後、市内行進して乗附校舎に入つたと言う。

創立五十周年記念式典は、昭和二十二年（一九四七）十一月二日から三日間にわたって盛大に催された。

当時の内藤由己男校長は式辞で次のように語られた。

「（前略）顧みるに創立以来星霜移りて五十年校地を移すること三ヶ所而して既に四十六回の卒業式を行ひ、卒業生総数四、六三七名となった。（中略）即ち今般の図書館建造といひ、さきの移転改築や学級増加の校舎増築といひ、これらの大事業は県当局地元有志父兄各位の御高配御援助によること勿論な

がら、主として同窓会員の母校愛に基づき強大なる尽力によって成し遂げられたものであって、之を思へば如何に本校同窓会が社会各方面にその人材と実力とを擁して居るか推して知るべく、即ち本校の成したる教育成果又蔵うべからざるものと言はねばならない。

さて来年は新制高等学校実施の年であるが、我々の高校は五十年の歴史を本年を以てその最後の頁を飾り、来年四月昇格して高等学校となる。

愛する高中に別せんとするは感慨誠に深いものがあるが、ただし昇格しても郷土のための学園たるに変わりないごとく高中の伝統の麗しいものはいよいよ磨かれて力強く継承されるであらう。については同窓会員父兄会員は勿論県当局を始め社会各方面各位の従前に変わらざる御支援をこいねがうてやまないのである。」

式典、祝賀会に引きつづき、各部の招待試合や文化部の発表などが文化祭

作品を基にして便化を依頼したのであったが、校旗の図案としては、グランスが帽章にも通用する様なシンメトリーな強さに欠ける為、これも最後の決定までには種々の難点を止めていた。種々苦慮した揚句、井上房一郎氏の八方奔走の結果は、米国の建築家レイモンド氏の知恵を借り前記生徒作品三十数点の中から、高の字を図案化した二年生小島曉君のアイディアが良いとの選定を見、その高の便化を基にレイモンド氏の手で高を丸でかこみ、白丸の中に黒い高の字の青い旗が生まれ、さしも、難行し、生まれ出づる悩みを味った校旗はやっと誕生することになった。これは新しい時代にふさわしい一新紀元を劃する校旗と思われまふ。この機会に規定大の校旗と、屋外のポールの大掲揚旗、応援団用の大きな旗と共に作られることになった。

（「草機」六十周年記念誌より）

新校歌制定について

教諭 永長 信一

（前略）高崎高等学校校歌制定委員会を構成、数回にわたって会合し、話し合った結果、草野心平氏に作詞をお願いすることになりました。昭和三十二年二月十三日草野先生来校二日間にわたって学校内外の活動状況や風物を見ていただき、生徒代表とも話し合いしてもらいました。五月六日草野先生から待望の原稿が到着し、委員会及び職員会で満場一致承認され、作曲者は草野先生の御意見を参照し数人の候補者中から、新進作曲家芥川也寸志氏を選んで氏に依頼しました。昭和三十二年



さながら行われたようである。

なお、五十周年記念事業については、収入が七二八、二八〇円で、図書館の建築、校舎改修などに使われた。図書館は建坪は百坪で、二階が同窓会館となっていた。

昭和三十二年十一月八日、創立六十周年記念式典が行われた。

この六十周年の記念事業として、校歌、校旗が新たに制定され、また理科校舎鉄筋コンクリート二階建、一三五坪が新築され、さらに元銃器庫が剣道場に改築された。

◇◇◇

今回は創立から六十周年までを振り返ってみました。次号で七十周年から九十周年を特集したいと思います。各周年行事につきまして、写真や資料がございましたらご協力ください。

芥川 也寸志

いまの世の中はいろいろな音楽でうつつまっています。音楽を求める人々には、非常に高い知性をもった藝術音楽を愛する人々と、一時的な刺激や低俗なものに満足してゐる人々とがあつてその中間がないのです。このギャップをつめるのが生活の歌だと思ふのです。

こうした意味で學園には、社会生活や家庭生活と結びついたその学校独自のスクールソングがなければなりません。そこに学校音楽の本質があるのです。

校歌も単に儀式の時だけのものでなく、いつまでも若さを引き出してくれ、心を感動させてくれるようなものが望ましいと思ひます。

ぼくはこう考へながら高崎高等学校の校歌を作曲しました。草野先生の立派な詩を頂いて仕合せでした。時に壯麗に、時に元氣満々に、時にはまたロマンティックに、その時々で気持ちでテン



上段中：記念理科棟(化学教室)
上段左、中段：創立60周年記念式典
下段中：前夜祭 提灯行列



校歌によせて、作曲者芥川氏と作詞者草野氏よりのメッセージ。

草野 心平

六十年のかげやかしい伝統のある高崎高等学校の新しい校歌です。でも私も力を入れてつくりました。それにつきましても、先生方や学生諸君またPTAの方々の熱誠さに力になれることができたことは、作詞者にとつては大きな力づけになりました。

また田中校長の「高校生の倫理」を讀し、氏の考へ方に大変共感出来たことも、作詞上するぶん助かりました。

光輝ある歴史は更に大きく展開するでせうが、その過去と未来のまんなかにあつての現在、學生諸君の夢は湧き出てをります。その夢のなかに私も交へてもらひ、學生諸君と一緒に新しい校歌をつくらうとしました。幸ひ聲高らかに歌っていたければ、それだけで私は光榮です。

水を進めたり、遅くしたりして、この校歌を自由に歌ひ上げて下されば幸いです。



八月八日、夏季休暇中に曲譜原稿を受領することが出来て同月二十九日、委員会並びに職員會議の承認を経て生徒に発表、直ちに全校練習を開始しました。

歌詞は今までの校歌の形式を脱したもので、自由な語形を使って、のびのびと本校独特の雰囲気唱われて居り、若い人々の夢と情熱を新鮮な感覚をもって美しく歌い出されています。

曲も詞にふさわしく男生徒に適した音域内で変ホ長調、四拍子の優美な中に、若々しい力にあふれた曲調で彩られており、歌い易く音楽的にも優れたものだと思ひます。また、ピアノ伴奏の美しさは、この校歌を更に輝かしいものにしていきます。(後略)

〔翠 嵯峨〕六十周年記念誌より

人物列伝

昨年の同窓会報で報告した、その後の進捗状況について述べたいと思います。

昨年度は三回の編集委員会がもたれ、

編集の基本方針、年度計画、人物誌の候補者の検討が行われました。

今年度は、二月、四月、七月、九月の四回にわたって総務委員会がもたれ、

人物誌の候補者の選定、執筆者等の選定が行われました。

これまでに次のような同窓の方々を人物誌において取り上げることになりました。

◆ ◆ ◆

実業界においては、三井不動産・建設社長を歴任した佐々木四郎(10回)、東京海上火災社長・会長を歴任した田中徳次郎(12回)の二人を取り上げることになりました。官界においては、会計検査院長を務めた芥川治(20回)、郵政事務次官を務めた田中鎮雄(31回)を取り上げ、政界においては、高崎市長を四期務めた住谷啓三郎(14回)、元総理の福田赳夫(21回)、中曽根康弘(35回)、医師会での活躍から政界へ進出し、環境庁長官を務めた丸茂重貞(33回)を取り上げることになりました。ジャーナリストにおいては上毛新聞社社長・会長を務めた篠原秀吉(5回)、スポーツニッポン社長・会長を務めた狩野近雄(25回)を取り上げることになりました。軍人としては陸軍中将になった篠原誠一郎(1回)、海軍中将で、第七艦隊司令長官を務めた岸福治(8回)、陸軍少将を務めた吉田栄治郎(14回)を取り上げることになりました。学者、教育者においては、政治学者として著名であった嶺山政道(12回)、英語教育においてその名をとどめている萩原恭平(16回)、県初代教育長を務め、後にICU教授になった小島重造(18回)、芝浦工業

大学理事長を務めた橋本富寿(21回)、聖マリアンナ医大創設に貢献した南雲今朝雄(22回)、ロシア語学者として著名で、高崎経済大学学長を務めた岡本正己(33回)、立教大学学長を務めた高橋健人(34回)、労働法の分野で著名で慶応大学教授を務めた阿久沢亀夫(39回)、日本近代文学者として、また群馬大学教養学部長を務めた勝山功(40回)、フランス文学者として国学院大学教授を務めた橋本一明(43回)、世界的な化学者として東京大学教授を務めた笛木和雄(44回)を取り上げることになりました。文学の分野では、詩人として著名な大手拓次(5回)、歌人として文化勲章をいただいた土屋文明(8回)、直木賞作家の橋外男(12回)、演劇評論家で有名な堀川寛一(14回)、芥川賞候補作家の金鶴泳(56回)を取り上げ、芸術の分野では、洋画家として著名な山口薫(24回)、彫刻家として分部順治(27回)、箏曲作曲・演奏家として有名であった宮下秀洲(28回)を取り上げ、スポーツの分野では、テニス選手でチルデンとの対決で有名な清水善造(7回)、戦争がなければ、プロ野球選手としてより一層の活躍が期待された三輪八郎(38回)を取り上げることになりました。海外での分野では、「ブラジル移民の父」と言われる横島、フィリピン在住で日比友好に尽力している大沢清(21回)、

インドネシアの独立に関与した西崎重忠(28回)を取り上げ、同窓会関係においては、初代同窓会長の岸浩(12回)、高崎高校の発展に大いに貢献した井上房一郎(15回)、同窓会長を務めた小山長四郎(18回)、京浜同窓会長で活躍し、明星電気会長であった高間繁(19回)を取り上げることになりました。恩師については、初代校長の沢柳政太郎、最近博物学的収集で注目されている岩沢正作、歌人として、また土屋文明に多大な影響を与えた村上成之、三十二年間本校に奉職された名物教師猪狩梅三郎、戦中・戦後の名物校長内藤由己男、三F精神の提唱、十一年間本校の校長を務めた田中悦平を取り上げることになりました。

人物誌は以上の四十七名を取り上げるほかに、高崎高校のそれぞれの時代の座談会を三ないし四掲載する予定です。さらに巻末に百周年ということ各界で活躍している同窓の方々を「翠樹の群像」(仮称)という形で人物事典的に取り上げる予定です。

◆ ◆ ◆

百周年誌の刊行にあたり、貴重な資料、また人物誌等に意見がありましたら、母校にご連絡頂ければ幸いです。今後資料収集等で同窓の方々にお世話になると思いますが、よろしくお願い致します。

(文責 植原政明 69回)

42期古稀記念誌

「懸車」について

内山 信次

還暦記念誌「華甲」刊行から数年たった同窓会総会の席上で、「七十を過ぎると気が喪失して、ものを書くのが大変になる」と言った意味の安居先生のお話がありました。

平成六年は同期の大半を占める大正十四年組が暦の上で古稀を迎えます。そこで二年前の平成三年春、再度の記念誌「懸車」刊行を決定。年末に参加要項を発送。一年三カ月。今年三月一日（卒業記念日）に刊行し、同時に高崎市駅ビルギャラリーで



「発刊記念創作とコレクション展」を開催するまでに漕ぎ着けました。

参加者は八十名。前回華甲は一〇九名でした。その間死没者十二名。

参加負担金一五、〇〇〇円。発刊費二二〇万円。B五判。一二二頁。墨刷。

（南ひまわり代表取締役 42回）

クラス会誌「のっつけ」のひと

小澤 清



昭和五十三（一九七八）年十一月に創刊、巻頭に、会報は43回生のテーブルである。と。爾来、年一回七月刊行、休刊することなく平成六年（一九九四）第十七号誌を上梓した。

内容は近況、思い出、随想、紀行、文芸等だが、終戦までの間の数年間、一時期交遊が絶えた。年齢的に青春期、この空白の期間の生活記録は貴重であった。現在も集録に努めている。級友以外に恩師を始め他期他校の方の寄稿も得ている。

クラス会は年一回実施。平成四年には戦時下で中止となった関西方面修学旅行を果たした。「のっつけ」は可能な限り発行を続けます。ご寄稿下さい。

事務局 高崎市九蔵町四一 小澤 清

（高中43会事務局）

「高高五十期あの日あの頃」

横田 英一



高崎高校昭和二十六年卒業（50期）生の還暦記念として「高高五十期あの日あの頃」を上梓致しました。記念誌については刊行委員の方々を中心に同期の仲間には勿論のこと、同窓各位のご協力を得て発刊することが出来たのであります。

内容は、小山同窓会会長の序文に始まり、恩師からいただいた玉稿二十五篇、同窓の寄稿八十三、思い出多き写真記録資料等から成り、特に戦中戦後の最も激変した時代を高中、高高で過ごした仲間たちのあの日あの頃を素直に書き残したものに於て居ります。二三四頁に編集しデザイン・カットも総て自分達で作った心のこもった記念誌が出来ました。



高高の輝かしい伝統ある百年の歴史の一頁に加えていただければ幸いです。

事務局 群馬トヨタ内

（群馬トヨタ自動車部）

取締役社長 50回

51期会報「秀嶺榛名紫に」

田中 順

秀嶺榛名紫に 香もゆかし和田の庄

堅き心に結ばれし 清き級のまどいかな

19期、故清水元寿作詩のご存知「級会歌」の冒頭句が、私達の会誌名タイトルである。

与蘭会(21期)、のっつけ(43期)が先輩の定期刊行会報名であり、51期会報発行が啓発されたことはいうまでもない。

昭和六十一年創刊し平成六年、第六号までA五判十六頁二十頁建てであり、諸先輩の周年記念誌になぞるまでの準備号といってもよい。

同級生の著作紹介、寄稿(菱刈隆永先生、磯部、樋口、東、高橋、長井、清水、増田、須藤の諸兄)掲載。『緑の下』には故田中、鈴木、東、持田、大塚の諸兄に登場してもらった。今秋、待望の51期記念誌が上梓刊行する。

これを機に気儘な編集人は、有能な編集人にバトンタッチをする。
(田中歯科医院 51回)

褒賞・叙勲者紹介

平成5年度叙勲 勲4等瑞宝章

荒居 宏(40回)

平成6年度叙勲 勲5等瑞宝章(保健衛生功労)

堀口喜告(36回)

翠樹文庫

BOOK

本校卒業生の寄贈して下さった本を集めた翠樹文庫に本年度(平成六年十月三十一日まで)次のような御著書を寄贈して頂きました。

●書名／著者

娘たちと母たちと／

エレナ・ボンネル、新井康三郎訳(51回)

国際体制論／土井泰彦(51回)

大平記の研究／長谷川 端(51回)

忘年／海老原和典(60回)

運命の出合い／大木紀元(58回)

高五十五期あの日あの頃／二十六年卒業生

教育法学／永井憲一(49回)

人材育成術／大塚則弘(63回)

追憶／竹内丈術(25回)

全検証ピンクチラシ裁判／清水英夫(68回)

懸車／高中第42回卒業生

風景の生産／佐藤健二(74回)

古代東国仏教の源流／熊倉浩靖(70回)

写真界の先覚／小澤 清(43回)

人類究極の電力／堀米 孝(48回)

作法の遊戯／浅井俊裕(80回)

大きな日記小さな物語／浅井俊裕(80回)

箱の世界／浅井俊裕(80回)

The Game of Manners／浅井俊裕(80回)

世紀末サイエンス／浅井俊裕(80回)

友と酒のある風景／関根平八郎(52回)

製造物責任紛争事例／島野 康(66回)

詩集彷徨／角田匡己(53回)

詩集流水／角田匡己(53回)

体験的憲法裁判史／新井 章(47回)

寄生木／武井耕天(45回)

港運がわかる本／天田乙丙(42回)

江戸東京物語(都心篇・山の手篇・下町篇)／

羽鳥昇兵(51回)

新編日本古典文学全集・大平記／

長谷川 端(51回)

日本人よ南へ行け／大澤 清(23回)

フィリピンの一日本人から／大澤 清(23回)

フィリピンと日本の行く道は一つ／

大澤 清(23回)

夢の果てまで気の向くままに／大澤 清(23回)

フィリピン邦人社会の戦前・戦中・戦後／

大澤 清(23回)

翠樹40号／京浜高高同窓会

秀嶺榛名紫に6号／51期卒業生

(図書部長 佐藤 照 53回)



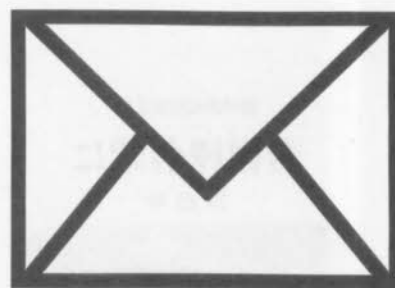
●卒業生の作品紹介●

座る女

高橋 威足

高崎駅構内の新幹線の改札口にある「座る女」という作品は私の20才代の作品であり、これから創造という原野に出発する気持ちをこめて制作した作品です。40才過ぎて、一年間、イタリアに留学することができました。最近になって、ようやく自分のフォルムというものが理解できた気持ちがいたします。機械化された風景の中に彫刻の花を咲かせたいと思う。

(成城学園勤務 61回)



大学生からの 便り～

変わりゆく時代の中で 茂木幸伸

学のカリキュラム変更、もう一つは自動車学校のカリキュラム変更です。これらは私の生活に大きな影響を与えています。この二つの大きな変革について書きます。

一つは大学の変革です。平成五年度(私が二年生のとき)にカリキュラムが変更になり、専門分野の教育に力を入れるようになりました。これにより、学部での講義および研究室配属が私たちから半年違うことになりました。(研究

現在、社会的に大きな変革期を迎えています。私はその変革を直接的に二回経験しています。一つは大

室配属の時期は、私たちは四年生になったとき、新課程では三年生の後期、すなわち十月から)このため、来年の四月には今の三年生、すなわち私たちが、十月には今の二年生が研究室に配属されるとあって、いつもの倍の人数を一年で受け入れることを余儀なくされた各研究室の方はかなり苦悩されているようです。

今までの内容は間接的な影響ですが、直接的な影響はこれ以上に大きいものがあります。それは、私たちのような「化学者の卵」を育てる場である学生実験です。量として今までの八割程度になってしまい、はたして私の実験の熟練度が低いまま研究室に配属されてしまわないであろうか、という不安があります。

もう一つの変化である自動車学校についてのことに話題を変えることにします。皆様ご存じだろうと思いますが、今年の五月十日をもって、

カリキュラムが変更となり、学科三十四時間、実技三十四時間に増加し、高速道路での教習、自主経路の設計、応急処置の訓練などの義務が追加されました。しかし、不器用な私にとっては、この変更はかなりこたえました。四時間で終わるはずの内容を十時間もかけてしまうなど予想をはるかに超えたスローペースとなり、もしかしたら卒業できないのではないかと考えたほどです。現在は無事に普通免許を取得していますが、当時の私の運転を見たら、よく免許を取れたものだと言われることでしょう。

これから先、どんな変化が待ち受けているのかは、私にはわかりませんが、それを乗り切るようこれからも頑張っていきたいです。

(東北大学理学部化学第二学科三年 91回)

母校だより

各部の活躍

軟式野球部

秋の新人戦でベスト4に入り、それ以上の成績を目標に高校総体に臨みました。初戦の対桐高では、1点を追う9回表2点をあげ、3対2で辛勝。この試合で勢いがつきました。育英高校を3対0で下し準決勝高工戦、序盤に2点を取られたものの、終盤に4点を取って4対2で逆転勝ち。決勝の相手は前高。定期戦で勝っていただけに負けられない試合です。0対0のまま終盤を迎え、7回に一挙5点、8回にも1点を追加し6対0で勝ち、高校総体初優勝、関東大会出場のキップを手に入れました。

テニス部

関東大会は東京都江戸川区球場で行われました。関東一高(東京)を1対0、八王子東(東京)を2対1で下し、決勝で帝京(東京)と対戦、延長13回を戦い抜き2対1で惜しくも敗れましたが、立派な試合を見せてくれました。

総体における団体優勝は、テニス部始まって以来のことでした。

昨年秋季の新人大会では、準決勝で古豪太田高校に敗れ、「この借りは総体で返す!」と、部員たち(顧問も)は燃えていました。練習時間の短くなる

冬季には日没後にウェイト

トレーニングを取り入れるなど、勝つための努力を惜しみませんでした。その甲斐あって、総体では準々決勝で桐工、準決勝では太田東といういずれも強豪を、スレイトで撃破し、決勝戦では太田高校をもストリートで倒し、雪辱することができました。いままで、敗北に肩を落としていた部員たちが、満面の笑みを浮かべていたのが印象的でした。

部員たちの健闘をたたえるところにも、お力添えをいただいた多くの先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも指導のほどよろしくお願いします。

陸上部

本年度の陸上部は、昨年度全国新人ランキング三段跳3位で、インターハイ優勝候補の今成を筆頭に、一般、大学も含めて県内のトップの4百mリレーでも全国入賞を狙う位置にあった。

県総体が始まり総合3位を狙う高高に4百mリレーオーバーゾーン失格のハプニング。これがなければ総体総合

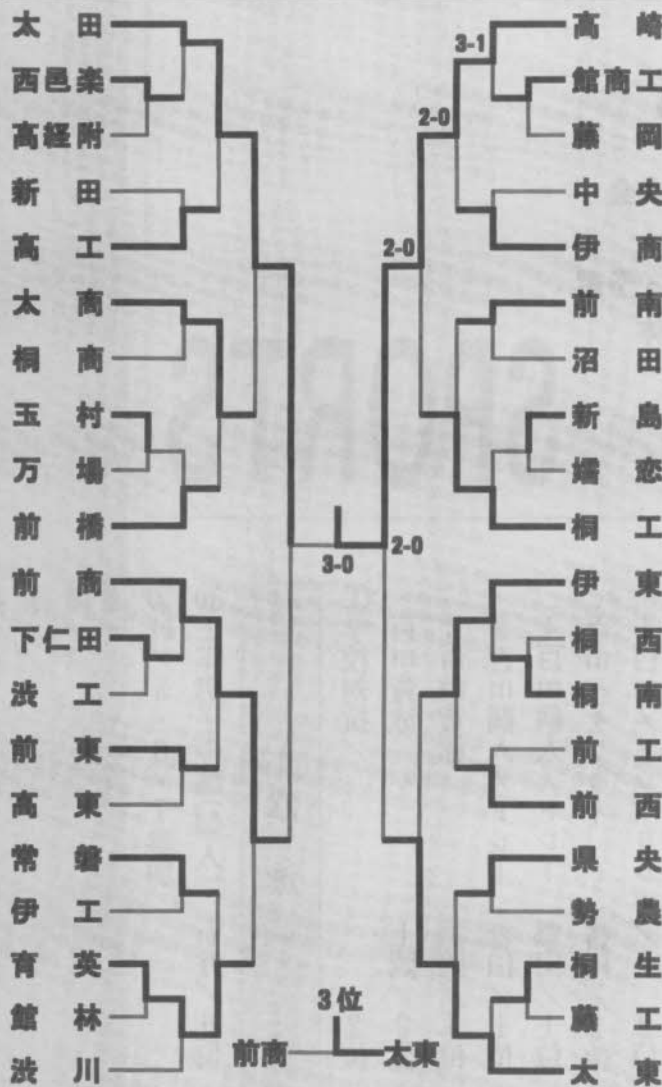
3位だった。沈滞した空気の中、百m決勝に残った2名が優勝争いを演じ、走り幅、三段優勝。特に三段跳は大会唯一の大会新であった。そんな盛り上がりの中、4百mリレーの雪辱戦千6百mリレーでは、予想以上に健闘、最後まで優勝争いに参加、総体総合5位入賞を決めた。

関東大会では新聞掲載のとおり今成が肉離れで棄権、群馬大会2位の前高今井が全国優勝。今成がでていれば、と悔やまれる大会であった。



県総合体育大会 今成 晃 三段跳び 14m97 大会新記録で優勝

平成6年度 群馬県高校総体テニス男子団体



◎各部の活動

運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

SPORTS

山岳部

①③団体/3位

関東大会4年連続6回目出場権獲得

(注:1位インターハイ・2・5・6位

関東出場)

空手

③団体型/6位

団体組手/8位

弓道

①団体/5位

③団体/3位

卓球部

①3回戦/高崎2-3前橋東

③2回戦/高崎2-3沼田

⑤予選/個人5回戦進出 北村貴博

⑦全日本選手権ジュニアの部 7回戦

進出 北村貴博/5位

軟式野球

①優勝

決勝戦/前橋0-6高崎

②準優勝

決勝戦/帝京(東京)2-1高崎

(延長13回)

③3位

準決勝/高商8-3高崎

⑥3回戦/高工3-0高崎

水泳

②11/5・6・7参加

⑥1年男子の部(個人) 石井/6位

①学校対抗/

100m背泳

上岡/2位

200m背泳

上岡/1位

200m個人メドレー

森田/1位

400m個人メドレー

森田/1位

100mバタフライ

皆川/2位

400mメドレーリレー/2位

②400mリレー、400mメドレーリレー

1、800mリレー、他個人多数

ソフトテニス部

①個人/島田鳥塚組 4回戦

団体/ベスト8

③個人/島田鳥塚組・小板橋設楽組

4回戦

団体/ベスト8

バレー部

①準決勝/高崎0-2前商

関東大会出場

②1回戦/

高崎0-2東海大菅生

③準決勝/高崎0-2桐商

⑦西毛地区大会優勝

決勝/高崎2-0高北

柔道

①団体/5位

②ブロック予選/1勝1敗

③団体/5位

個人軽量級

長井秀憲/3位

軽中量級 片柳孝洋/3位

中量級 屋敷延久/3位

⑦県学年別大会

86kg級 鈴木才樹/3位

⑦強化大会

60kg級 長井秀憲/2位

86kg級 屋敷延久/3位

ラグビー

①2回戦/高崎7-7藤岡(抽選負)

④2回戦/高崎8-10明和県央

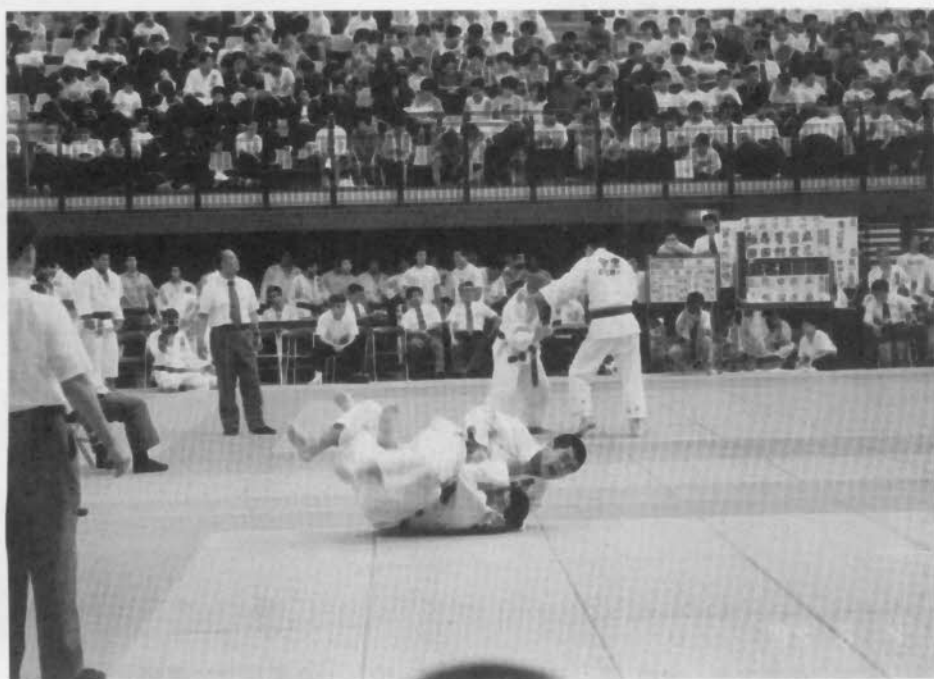
スキー部

①③回転競技/

柴田 悠 38位、五十嵐貴史 53位

大回転競技/柴田 悠 63位

②大回転競技/堀越崇督 57位



回転競技／柴田 悠 29位、渡部
宏幸 35位

↓以上2名 第29回関東大会出場

テニス部

①団体戦／優勝

個人戦 シングルス／

板橋マリオ

準優勝

ダブルス／板橋マリオ・新井宏樹組

準優勝

③団体戦／3位

個人戦／板橋マリオ 準優勝

／板橋・新井組 3位

④個人戦／板橋マリオ 1回戦

⑥個人戦／ダブルス

高見沢圭・上村 和弘組 準優勝

硬式野球

⑦春季大会／3回戦 高崎1-3高工

夏季大会／2回戦 高崎2-7桐生

秋季大会／2回戦 高崎10-12富実

バスケットボール

①5位 準々決勝 高崎47-70前橋

③5位 準々決勝 高崎53-63高商

サッカー部

①4回戦 高崎0-0樹徳(PK4-5)

③4回戦 高崎0-1前東

⑦全国高校サッカー県予選

4回戦 高崎0-0高工(PK3-4)

陸上部

①100m／今成 晃 11秒17 2位

羽鳥崇文 11秒28 5位

走り幅／今成 晃 7m17 1位

三段／今成 晃 14m97 1位

(大会新記録)

走り高／中島 晋 1m90 6位

円 盤／宮沢顕賢 37m40 6位

4×400リレー／3分21秒1 5位

総体総合／5位

⑦群馬リレーカーニバル

400mリレー／41秒96 1位

学校対抗陸上／一部 総合7位

学芸部

CULTURE

美術部



鈴木浩(三年) 全国高等学校総合文化祭(愛媛県松山市 H8/4-6)に群馬県代表として参加した。

作品名「戦争」三十号(写真の絵)

囲碁

1. 第9回関東地区高等学校囲碁選手権大会(茨城県水戸市 H5・12/26)に群馬県代表として、団体戦に出場した。(4年連続4回目)

◇団体戦選手

小川 高明(二年)

高橋 啓介(二年)

牧野 孝広(一年)

2. 第18回全国高校囲碁選手権大会(東京都千代田日本棋院 H6・7/25・26)に団体戦・個人戦ともに群馬県代表として出場した。(5年連続5回目)

◇団体戦選手

小川 高明(三年)

牧野 孝広(二年)

花田 秀一(二年)

◇個人戦選手

小川 高明

高橋 啓介

清水 孝一(三年)

関根 尚(三年)

関根 義寛(三年)

将棋

第三十回全国高等学校将棋選手権大会(徳島県徳島市 H6・8/3-4)に群馬県代表として団体戦に出場した。(2年連続15回目)

◇団体戦選手

清水 孝一(三年)

関根 尚(三年)

関根 義寛(三年)

結果は、1回戦は不戦勝。2回戦は

高知県代表の高知高校を2対1で破り、

三回戦で兵庫県代表の灘高校に0対3

で敗退。(全国ベスト16位)

8回全国高校囲碁選手権大会



牧野 孝広

結果は、団体戦は、1回戦で山口県代表の徳山高校に1対2で敗退。

個人戦は、小川君は、1回戦、沖縄県代表を破り、2回戦で千葉県代表に

敗退。牧野君は、1回戦で富山県代表

に敗退。

●翠巒祭・高前定期戦

●翠巒祭

どのように変革させていくかが今後の課題――。

今年の翠巒祭は天候に恵まれたせいもあってか、例年に比べて入場者数は多めだったし、予想以上の盛り上がりを見せたイベントもあった。ファイヤー・ストームも続けることができた。いくつか反省すべき点も残ったが、まあ、及第点はもらえると思う。

ただ、準備段階も含めて翠巒祭全体を考えると、学芸部のエネルギーが足りないという気がした。翠巒祭の中心となるのは学芸部の発表・展示だが、これがあまりパツとしない。どの部の展示も昨年度の焼き直しのようなものに終始し、よく練られた高度な内容や画期的な試みがほとんど見られなかったのが残念だった。

年間を通しての活動がきわめて低調で、翠巒祭の前になってあわてて動き始める、という学芸部の現状から考えればこうなるのも当然だが、一方では「翠巒祭のために」結成された団体が個性的な展示をして、翠巒祭への参加のしかた、学芸部のありかたの一つの可能性を示してくれたことも事実だ。

今後も学芸部の低調化は続き、廃部になるところも多く現れるだろう。五

年後、十年後に、現在の学芸部のうちいくつが存在しているか、とても不安だ。学芸部の展示に代わって中心となるものを作り出さなければならぬかもしれない。長期的視野に立って、翠巒祭はどう変わってゆくべきなのかを模索することが必要になるが、その際には、高生生の持つエネルギーをどういう形で翠巒祭のために燃やすか、というのが最大のテーマとなるだろう。

(翠巒祭実行委員長 関口曉彦)

●定期戦

「理由なき情熱」を合い言葉に、気合い充分で挑む。

心配された台風も過ぎさり、もう十月だというのに真夏の様な熱さとなった九月三十日、決戦前夜、高崎高校フットボール部(これは当日何も出場しない生徒が自分達の青春を高く、前高間16

キロを歩くことで爆発させようという集団のことである)の勇者三十余名は自分の思いを込めた旗(フラッグ)を持ち3F池前に集合した。当初はこんな大所帯になるとは思っておらず、高生生の気合いが感じられた。そして、「理由なき情熱」の旗印のもと一人の脱落者も出ることなく無事前高に到着し、前高の校門でみんなが来るのを待ち、力強く「ウォース」と声をかけ、高生生には「やる気」を、前高生には「威圧」を与えた。その事もあり、また応援団の活躍もあって開会式では前高など比べものにならない程、校歌の声も大きく、勢いは完全に前高を喰っていた。しかし、競技が始まると、前

高も、昨年の雪辱を晴らさんと力を出し始め、高生は苦戦を強いられた。前高が会場だったこともあってか、前高の応援は終始高生を圧倒しており、そのことも戦局に大きく影響したのでは、と思う。結局勝敗は最後までもつれこみ十点差で我が高崎高校は敗北を喫してしまった。

敗けてしまっても悔しくないと言ったらしい。実行委員も精一杯頑張ったし、選手みんなも力を出しきることができた。応援の不足や、練習の不足、部対抗に頼りがちななどいろいろ問題も出たが、青春の思い出に残る名勝負だった。(実行委員長 浅見善広)



部対抗		種目	一般対抗	
高	前		高	前
		水泳	3	6
		綱引	0	9
		ソフトボール	0	9
		駅伝	3	6
		五入	3	6
6	0	陸上競技	0	9
6	0	バスケットボール	4	5
6	0	バレーボール	4	5
6	0	軟式庭球	9	0
0	6	卓球	2	7
0	6	硬式野球		
6	0	軟式野球		
6	0	剣道		
6	0	柔道		
0	6	空手		
0	6	弓道		
6	0	テニス		
6	0	サッカ		
0	6	ラグビー		
54	30	小計	28	62
高	82	総合	92	前高

●最近の進学状況について

平成六年の大学入試は、現役合格率79・2%で、東大合格者も現役十七名で計十九名という好成績をあげることができました。東大の現役合格者数が公立高校では全国六位などに示されるように、国公立、私立を問わず現役の健闘が目立ちました。

生徒達の三年間の頑張りが実ったわ

けですが、自習時間ゼロなど学校をあげての指導の取組みも原因の一つではないかと自負しております。

生徒は三年間で燃焼しつくすような充実した高校生活を過ごしています。高校総体総合三位の成績をあげた運動部員は、現役合格率82%でした。

来春も、生徒全員が志望を達成でき

進路状況 全日制 内は現役

大学	年次	4年	5年	6年	大学	年次	4年	5年	6年
北海道		12 (9)	10 (5)	7 (6)	青山学院		21 (16)	17 (8)	12 (4)
東北		31 (27)	19 (16)	29 (22)	学習院		10 (9)	12 (3)	8 (6)
茨城		2 (1)	2 (2)	1 (0)	慶応		54 (43)	35 (19)	50 (38)
筑波		8 (7)	4 (3)	3 (2)	国際基督教		2 (1)	3 (1)	
群馬		47 (38)	38 (31)	58 (45)	芝浦工業		10 (10)	10 (7)	11 (8)
埼玉		7 (7)	12 (11)	7 (6)	上智		16 (11)	18 (9)	5 (3)
千葉		8 (3)	12 (8)	7 (6)	成蹊		5 (3)	3 (2)	3 (1)
東京		16 (15)	10 (7)	19 (17)	中央		35 (18)	45 (23)	37 (21)
東京外語		4 (3)	2 (2)	2 (2)	東京電機		11 (5)	9 (3)	4 (2)
東京工業		9 (8)	3 (2)	4 (3)	東京理科		56 (36)	48 (35)	88 (63)
一橋		4 (3)	5 (3)	4 (4)	東洋		13 (4)	16 (6)	25 (10)
横浜国立		12 (9)	10 (8)	12 (6)	日本		98 (44)	66 (42)	94 (77)
新潟		12 (10)	19 (15)	21 (15)	法政		30 (17)	34 (15)	39 (22)
金沢		9 (7)	9 (6)	3 (3)	明治		56 (22)	56 (23)	64 (36)
信州		5 (2)	1 (0)	8 (5)	明治学院		24 (6)	13 (5)	13 (5)
名古屋		2 (0)	1 (1)	1 (1)	立教		12 (3)	15 (5)	11 (3)
京都		7 (6)	6 (3)	4 (4)	早稲田		55 (24)	43 (23)	46 (29)
高崎経済		19 (8)	21 (19)	23 (13)	同志社		7 (2)	12 (4)	12 (2)
東京都立		2 (0)	4 (1)	2 (1)	立命館		15 (3)	17 (2)	25 (8)
横浜市立		6 (5)	4 (1)	8 (4)	その他		275(79)	246 (105)	260 (115)

種別合計 全日制 内は現役

大学名	4年	5年	6年
A 国立	246(180)	186(137)	225(165)
B 公立	28(14)	31(22)	40(21)
C 私立	756(330)	695(323)	733(426)
A + B + C	1030(524)	912(482)	998(612)
D 短大、各種他	7(5)	1(0)	7(6)
総数 (延数)	1037(529)	913(482)	1005(618)
卒業生数	423	399	404
現役進学者数	276	282	295
現役合格率(合格者数/受験者数 × 100)	66.2%	71.8%	79.2%

なう、教職員一丸となつて進路指導にあたりたいと思ひます。

(進路部長 井本嘉宣 56回)

も史上最高現役合格率79.2%



●人事異動

転退任者

- 根岸 信吉 教頭 → 富岡東高校(校長)
- 井上 健郎 教諭 → 退任
- 大山 勝男 教諭 → 高崎北高校
- 高橋 寛 教諭 → 万場高校
- 山口 正章 事務 → 県教育課
- 高橋利恵子 司書 → 渋川高校
- *清水可代子 教諭 → 盲学校
- *松本 久幸 教諭 → 双葉養護学校

新任者

- 森田 忠義 教頭 → 前橋西高校
- 斎藤 和義 教諭 (社会) → 高崎女子高校
- 丸山 直樹 教諭 (国語) → 藤岡高校
- 福田 亨 教諭 (英語) → 前橋商業高校
- 天野 正明 教諭 (英語) → 前橋東高校
- 田村 知恵 教諭 (家庭) → 勢多農林高校
- 飯塚 正明 事務 → 富岡実業高校
- 大森 友江 司書 → 新採用
- *小澤 龍雄 教諭 (数学) → 渋川高校
- *高木 道子 教諭 (国語) → 高崎市立女子高校

*印は通信制

平成5年度 同志会経常会計決算

平成5年度経常会計			
収入の部			
費目	平成5年度予算	平成5年度実収入	備考
前年度からの繰越金	226,055	226,055	
入会金	850,000	850,000	全日制398 通信制27
維持会費	6,000,000	6,623,000	
利息	50,000	14,504	
雑収入	1,000	0	
合計	7,127,055	7,713,559	

支出の部			
費目	平成5年度予算	平成5年度実支出	備考
会議費	1,000,000	915,928	平成6年総会補助30万他
祝賀費	700,000	534,637	ネクタイピン代等
饗別費	200,000	371,000	平成5年転退職員へ
慶弔費	100,000	85,450	葬儀花輪代等
通信印刷費	600,000	210,106	謝辞公報人私状、宛先ツラナ
旅費	200,000	63,000	京浜同志会出席者等
会報発送費	1,400,000	1,277,064	会報発送郵送料
同志会報費	1,500,000	1,524,400	会報編集・印刷費
事務費	400,000	354,851	人件費、事務用品代他
同志会長賞費	100,000	34,760	ガラス盾
補助費	300,000	600,000	図書館30万、環境体育会30万
雑費	50,000	50,500	名簿返金
予備費	577,055	0	
100周年関係	0	1,063,529	コンピュータ73万 会議補助他
合計	7,127,055	7,085,225	

差引残高 628,334
100周年基金へ 300,000
次年度への繰越し 328,334

平成6年度経常会計予算				
収入の部				
費目	平成5年度予算	平成6年度予算	前年比(増○減▽)	備考
前年度からの繰越金	226,055	328,334	○ 102,279	
入会金	850,000	3,100,000	○ 2,250,000	1,200×200
維持会費	6,000,000	6,500,000	○ 500,000	
利息	50,000	20,000	▽ 30,000	
雑収入	1,000	1,000		
合計	7,127,055	9,949,334		

支出の部				
費目	平成5年度予算	平成6年度予算	前年比(増○減▽)	備考
会議費	1,000,000	1,000,000		
祝賀費	700,000	700,000		
饗別費	200,000	300,000	○ 100,000	
慶弔費	100,000	100,000		
通信印刷費	600,000	600,000		
旅費	200,000	200,000		
会報発送費	1,400,000	1,700,000	○ 300,000	郵便値上
同志会報費	1,500,000	1,800,000	○ 300,000	
事務費	400,000	400,000		
同志会長賞費	100,000	100,000		
補助費	300,000	600,000	○ 300,000	
雑費	50,000	50,000		
予備費	577,055	399,334	▽ 177,721	
100周年関係	0	2,000,000	○ 2,000,000	100周年準備
合計	7,127,055	9,949,334	○ 2,822,279	

平成5年度特別会計			
収入の部		支出の部	
繰越金	11,944,174	なし	
利息	372,657		
合計	12,316,831		

第93回高同志会
新年総会へのお誘い

高同志会の皆様におかれましては益々お元気で活躍の事とお慶び申し上げます。

さて母校の創立百周年の記念事業の準備も順調にスタートした様です。

私達は64期で来年一月の新年総会の設営の当番期になりました。先輩からの伝統をつなぎ、指導頂き、楽しい会を計画し努力しております。

尚、総会後の懇親会では高中高での青春を校歌・応援歌により引き戻し、往時をしのんで頂ければこの上ない幸です。どうか皆様、お声を掛け合い参加頂けます様、当番期一同心よりお待ちしております。

※チケットご希望の方、左記にご連絡お願い申し上げます。

期日 平成七年一月二十八日(出)
時間 午後三時半
場所 高崎ビューホテル
会場 五千円
TEL 〇二七三二二五〇〇五五
(当番期84代表 広田誠四郎)

●編集後記



たくさんの方の同志の皆様に多大な御協力をいただき、同志会報第28号が発刊できましたことをお礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。

百周年を間近に控えまして、毎回、百周年特集を組んでおりますが、今号と次号の二回連続で、周年記念事業の回顧を特集しております。今号で創立から六十周年記念式典まで、次号では、七十周年から九十周年まで特集いたします。ご意見・ご感想などお寄せください。

同志の皆様で、御住所の変更や勤務先の異動などの変更がございましたら、郵便でご連絡ください。次回の名簿刊行(一九九七年)に生かしたいと存じます。

なお名簿についてのお問い合わせは、「同志会名簿刊行委員会」(高崎市八千代町二四一)が郵便で行っています。
(本部幹事会)